

解説書

演奏能力向上のための
クワライズ

採譜・解説 / アンソニー・ヴィッツェイ

リットーミュージック



目次

| | |
|------------|---|
| はじめに | 5 |
|------------|---|

PART 1

| | |
|---|---|
| Fingering Exercises ●フィンガリング・エクササイズ | 6 |
|---|---|

exercise 1

| | |
|---|---|
| chromatic on single string ●クロマティック / 横移動 | 7 |
|---|---|

exercise 2

| | |
|---|---|
| chromatic across all strings ●クロマティック / 縦移動 | 8 |
|---|---|

exercise 3

| | |
|--|----|
| chromatic pattern ●クロマティック / 1212・3212・3432・1234 | 10 |
|--|----|

exercise 4

| | |
|---|----|
| strength and independence ●2音 / 縦移動 | 12 |
|---|----|

exercise 5

| | |
|--|----|
| strength and independence reversed ●2音 / 縦移動 / リヴァース | 14 |
|--|----|

exercise 6

| | |
|---|----|
| scales chromatically ●スケール / 半音移動 | 16 |
|---|----|

exercise 7

| | |
|---|----|
| arpeggios chromatically ●アルペジオ / 半音移動 | 18 |
|---|----|

exercise 8

| | |
|---------------------------------------|----|
| scales in 3rds ●スケール / 3度のシーケンス | 20 |
|---------------------------------------|----|

PART 2

| | |
|----------------------------------|----|
| Fretboard Knowledge ●指板の把握 | 22 |
|----------------------------------|----|

exercise 9

| | |
|------------------------|----|
| intervals ●音程の把握 | 23 |
|------------------------|----|

exercise 10a

| | |
|--|----|
| natural notes on the "E" string ●4弦 (E弦) 上のナチュラル・ノート | 24 |
|--|----|

exercise 10b

| | |
|--|----|
| natural notes on the "G" string ●1弦 (G弦) 上のナチュラル・ノート | 25 |
|--|----|

exercise 11

| | |
|--|----|
| notes have many colors ●同音異弦の把握 / 単音 | 26 |
|--|----|

exercise 12

| | |
|--|----|
| bassline in different positions ●同音異弦の把握 / ライン | 27 |
|--|----|

PART 3

| | |
|--|----|
| Funk/R&B Techniques ●ファンク / R&Bテクニック | 28 |
|--|----|

exercise 13

| | |
|--|----|
| long and short notes ●ミュートを使ったロング・ノートとショート・ノート | 29 |
|--|----|

exercise 14

| | |
|---|----|
| groove using muting technique ●ミュートを使ったグルーブ | 30 |
|---|----|

exercise 15

| | |
|--|----|
| advanced groove using muting technique ●ミュートを使った上級グルーブ | 31 |
|--|----|

exercise 16

| | |
|---|----|
| groove over two chords ●ミュートを使った2コードによるグルーブ | 33 |
|---|----|

exercise 17

| | |
|--|----|
| muting technique and string skipping ●ミュート & 弦跳び | 34 |
|--|----|

exercise 18

| | |
|---|----|
| basic octave slap technique ●基礎的なオクターヴ・スラップ・テクニック | 36 |
|---|----|

exercise 19

| | |
|---|----|
| basic thumb technique ●基礎的な親指スラップ・テクニック | 38 |
|---|----|

exercise 20

| | |
|--|----|
| slap bass groove ●オクターヴと親指によるスラップ・グルーブ | 39 |
|--|----|

exercise 21

| | |
|---|----|
| advanced slap groove with hammer-ons ●ハンマリング・オンによる上級スラップ・グルーブ | 40 |
|---|----|

PART 4

| | |
|---|----|
| Rhythm Studies and Various Styles ●リズム・トレーニング～様々なスタイル | 42 |
|---|----|

exercise 22a

| | |
|---|----|
| whole and half note rhythms ●全音符と2分音符 | 43 |
|---|----|

exercise 22b

| | |
|---|----|
| introduction of dotted notes ●簡単な符点音符 | 44 |
|---|----|

exercise 22c

| | |
|--|----|
| combinations of rests ●4分休符のコンビネーション | 45 |
|--|----|

exercise 23a

| | |
|---|----|
| quarter and eighth note rhythms ●4分音符と8分音符のコンビネーション | 46 |
|---|----|

exercise 23b

| | |
|--|----|
| focus on quarter and eighth note rests ●4分休符と8分休符のコンビネーション | 48 |
|--|----|

exercise 24a

| | |
|--|----|
| quarter and eighth note relationship ●4分音符と8分音符の関係 | 50 |
|--|----|

exercise 24b

| | |
|--|----|
| eighth note rest movement ●8分休符の移動 | 50 |
|--|----|

exercise 24c

| | |
|---|----|
| adding eighth note rests ●8分休符の追加 | 51 |
|---|----|

| | |
|--|-----------|
| exercise24d | |
| eighth note movement●8分音符の移動 | 51 |
| exercise24e | |
| adding muted notes●実音とミュートのコンビネーション① | 52 |
| exercise24f | |
| mixing eighth notes with muted notes●実音とミュートのコンビネーション② | 53 |
| exercise25a | |
| feeling subdivisions●拍子の分割(4・8・3連・16分音符) | 54 |
| exercise25b | |
| 16th note rhythms●16分音符のコンビネーション | 55 |
| exercise25c | |
| combining rhythms●25a・25bのコンビネーション | 56 |
| exercise25d | |
| non-repeated rhythms●規則性のないリズム | 57 |
| exercise26a | |
| jazz "2 feel"●ジャズ"2フィール" | 58 |
| exercise26b | |
| jazz "skip 2 feel"●ジャズ"スキップ2フィール" | 60 |
| exercise26c | |
| walking bassline●ウォーキング・ベースライン | 62 |
| exercise27a | |
| straight eighth rock●ストレート8ビート・ロック | 64 |
| exercise27b | |
| rock feel with movement●動きのあるロック・フィール | 65 |
| exercise27c | |
| heavy metal●ヘヴィ・メタル | 66 |
| exercise28a | |
| bossa nova●ボサ・ノヴァ | 68 |
| exercise28b | |
| Latin tumbao●ラテン(トゥンバオ) | 70 |
| exercise28c | |
| Latin with improvisation●上級ラテン・フィール | 72 |
| exercise29a | |
| basic hip-hop feel●基礎的なヒップホップ・フィール | 74 |
| exercise29b | |
| advanced hip-hop feel●上級ヒップホップ・フィール | 75 |
| デモ演奏について | 76 |
| おわりに | 78 |
| プロフィール | 79 |

はじめに

様々なスタイルのベース・プレイを通して、基礎的な演奏技術を身につけること——それがこのビデオの目的です。

ここで紹介するマテリアルの多くは、私が実際にバークリー音楽院の授業で使っているものです。

私はこれまでに何百人もの生徒たちを指導してきました。彼らの大部分にはある共通した欠点があり、それを正すために私は数多くのエクササイズを作りました。それらのうちでも特に効果的で、なおかつ短時間で練習できるものを選んで、このビデオに収録したわけです。

簡単すぎたり、音楽的には聴こえないエクササイズもあるかもしれませんが。しかしこれらをマスターすれば、あなたのプレイは確実に進歩し、楽器による自己表現にも磨きがかかります。それは私の生徒たちによって実証されていることです。

練習の効果が期待するほど早くは現れなかったとしても、落胆する必要はありません。あきらめずに自分のペースを守って練習を続けていけば、効果は必ず現れます。

できる限り多くのマテリアルを詰め込むため、ビデオでは言葉による説明を極力省きました。各エクササイズについての詳細は、すべてこの解説書で見てください。本書によって、練習の目的やポイントが明らかになります。

それでは始めましょう。

PART 1

Fingering Exercises

フィンガリング・エクササイズ

PART1では、手の力と各指の独立性、演奏の速度と安定性、そしてスケールとコード・アルペジオに関する基礎的な知識を身につけることに焦点を当てました。

ここで重要なのはウォームアップをしっかりと行なうことです。最初はゆっくりしたテンポで始め、慣れるにつれ速度を速めていくようにしてください。私はいつも30分ほどの時間をかけて、徹底的にウォームアップを行なっています。

エクササイズが簡単すぎる場合は、自分なりに難しくしてみましょう。例えばテンポを限界まで速めてみるのもいいですし、5弦ベースや6弦ベースを使用しているのであれば、それに合わせてエクササイズを拡張することもできます。

練習時間は最大限有効に使いましょう。そしてチャレンジ精神を持ち、意識を集中させ、楽しんで練習することを覚えてください。

exercise 1

chromatic on single string ● クロマティック / 横移動

♩ = 46

T
A
B

1 2 3 4 2 3 4 5 | 3 4 5 6 4 5 6 7 | 5 6 7 8 6 7 8 9

7 8 9 10 8 9 10 11 | 9 10 11 12 12 11 10 9 | 11 10 9 8 10 9 8 7

9 8 7 6 8 7 6 5 | 7 6 5 4 6 5 4 3 | 5 4 3 2 4 3 2 1

主な目的

- ウォームアップ、指の力をつけること、ネック上の横方向の動き(ロー・ポジションからハイ・ポジションまで)に慣れることを目的としたエクササイズです。

練習方法

- メトロノームに合わせて練習してください。
- 滑らかに弾けるようになったらテンポを上げます。
- ビデオでは3弦(A弦)のみを弾いていますが、同じことをすべての弦で行なってください。各弦の太さの感覚もつかめるようになります。

ポイント

- 左手を滑らかに動かすように心掛けてください。
- 右手はオルタネイト(人差指と中指を交互に使う)で弾きましょう。
- テンポを速めても音は均一でなくてはなりません。

exercise2

chromatic across all strings ● クロマティック / 縦移動

$\text{♩} = 60$

T
A
B 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 4 3 2 1 4 3 2 1

T
A
B 4 3 2 1 4 3 2 1 2 3 4 5 2 3 4 5 2 3 4 5

T
A
B 5 4 3 2 5 4 3 2 5 4 3 2 3 4 5 6 3 4 5 6

T
A
B 3 4 5 6 3 4 5 6 6 5 4 3 6 5 4 3 6 5 4 3 6 5 4 3

T
A
B 4 5 6 7 4 5 6 7 4 5 6 7 7 6 5 4 7 6 5 4

T
A
B 7 6 5 4 7 6 5 4 5 6 7 8 5 6 7 8 5 6 7 8

T
A
B 8 7 6 5 8 7 6 5 8 7 6 5 8 7 6 5

主な目的

- ウォームアップ, 指の力をつけること, ネック上の縦方向の動き(4弦から1弦まで)に慣れることを目的としたエクササイズです。

練習方法

- ビデオでは1フレットから8フレットまでを使用していますが, 実際の練習ではこのパターンをさらに1フレットずつ上げていき, 12フレットに達したところで折り返すようにしてください。
- 他はexercise1と同様です。
(※以下のエクササイズの練習方法も, 特に注意書きがない場合は前のエクササイズに従ってください)

ポイント

- 右手はオルタネイトで弾き, 弦が移っても音を均一に保つよう心掛けてください。

exercise4

strength and independence ● 2音 / 縦移動

♩ = 66

主な目的

- 左手の指の力と独立性を養う練習です。

練習方法

- まずは確実に弾けるテンポで弾きましょう。
- ビデオのパターンを半音(1フレット)ずつ、人差指が12フレットに達するまで上げていってください。
- 上行しきったところでメトロノームのテンポを上げ、今度は下行する、という練習もしてみてください。

ポイント

- やはり薬指と小指が大変だと思います。この2本は力の入りにくい指なので、特に時間をかけて練習しましょう。
- 手が疲れてきたら休んでください。

- この練習を繰り返していくうちに、指の力がどんどんついていくことに気付くでしょう。

exercise5

strength and independence reversed ● 2音／縦移動／リヴァース

♩ = 66

主な目的

- exercise4と同様です。

練習方法

- exercise4と同様です。

ポイント

- exercise4の動きを逆にしただけのものですが、それによってかなり難しくなっていることがわかるでしょう。

exercise 6

scales chromatically ● スケール / 半音移動

A Ionian

$\text{♩} = 60$

T
A
B

0 2 4 0 2 4 1 2 2 1 4 2 0 4 2 0

T
A
B

0 2 4 0 2 4 1 2 2 1 4 2 0 4 2 0

B^b Ionian

T
A
B

1 3 0 1 3 0 2 3 3 2 0 3 1 0 3 1

T
A
B

1 3 0 1 3 0 2 3 3 2 0 3 1 0 3 1

B Ionian

T
A
B

2 4 1 2 4 1 3 4 4 3 1 4 2 1 4 2

T
A
B

2 4 1 2 4 1 3 4 4 3 1 4 2 1 4 2

C Ionian

T
A
B

3 5 2 3 5 2 4 5 5 4 2 5 3 2 5 3

T
A
B

3 5 2 3 5 2 4 5 5 4 2 5 3 2 5 3

主な目的

- 指を鍛えながらスケールやモードの知識を身につけるのが目的です。

練習方法

- ビデオの要領で、このパターンを1オクターブ上まで上げていきます。
- 上行しきったところでスケールを変えて、今度は3弦の開放であるAまで下行する、という練習もしてみてください。
- ビデオでは3弦(A弦)から始めていますが、4弦(E弦)から始めるパタ

ーンも試してください。

- 2, 3種類のスケールで練習したら、テンポを少し速めてみましょう。

ポイント

- 開放弦(0フレット)が入るパターンを弾く時は特に注意しましょう。指板をよく把握している人でも、開放弦入りのパターンにはてこずることが多いからです。

exercise7

arpeggios chromatically ●アルペジオ／半音移動

$\text{♩} = 60$ AMaj7

B♭Maj7

BMaj7

CMaj7

主な目的

- 指を鍛えながら、3和音(トライアド)や6度、7度を使ったコード・アルペジオを身につけるのが目的です。

練習方法

- ビデオの要領で、このパターンを1オクターブ上まで上げていきます。
- 上行しきったところでコードを変えて、今度は3弦の開放であるAまで

下行する、という練習もしてみてください。

- ビデオでは3弦(A弦)から始めていますが、4弦(E弦)から始めるパターンも試してください。

ポイント

- 開放弦を使ったアルペジオもしっかり覚えましょう。

exercise8

scales in 3rds ● スケール / 3度のシーケンス

♩ = 60 A Ionian

B \flat Ionian

B Ionian

C Ionian

主な目的

- 両手の指の力, 敏捷性, 独立性を養う練習です。スケールをマスターするのにも役立ちます。

練習方法

- ビデオの要領で, このパターンを1オクターブ上まで上げていきます。
- 上行しきったところでスケールを変えて, 今度は3弦の開放であるAまで下行する, という練習もしてみてください。
- この3度のシーケンスを, 3弦(A弦)から始めるパターン, 4弦(E弦)か

ら始めるパターンの両方で弾いてみましょう。また, この要領ですべてのモードやマイナー・スケールにもトライしてみましょう。

ポイント

- これらはすべて, 3度音程のくり返しによるパターンです。各拍の表と裏はすべて長3度または短3度の関係になっています。

exercise 10a

natural notes on the "E" string ●4弦(E弦)上のナチュラル・ノート

Exercise 10a consists of four measures of music on the E string. The tempo is marked as ♩ = 46. Each measure is shown with a musical staff and a corresponding fretboard diagram. The notes and fret numbers are as follows:

| Measure | Fret | Note |
|---------|------|------|
| 1 | 0 | E2 |
| 1 | 1 | F2 |
| 1 | 3 | G2 |
| 1 | 5 | A2 |
| 1 | 7 | B2 |
| 1 | 8 | C3 |
| 2 | 10 | D3 |
| 2 | 12 | E3 |
| 2 | 13 | F3 |
| 2 | 15 | G3 |
| 2 | 17 | A3 |
| 2 | 19 | B3 |
| 3 | 20 | C4 |
| 3 | 19 | B3 |
| 3 | 17 | A3 |
| 3 | 15 | G3 |
| 3 | 13 | F3 |
| 3 | 12 | E3 |
| 4 | 10 | D3 |
| 4 | 8 | C3 |
| 4 | 7 | B2 |
| 4 | 5 | A2 |
| 4 | 3 | G2 |
| 4 | 1 | F2 |
| 4 | 0 | E2 |

主な目的

- exercise 10aと10bは、指板のどこに何の音があるかを覚えるための練習です。ナチュラル・ノートの配置を視覚的に覚えてください。

練習方法

- 2弦(D弦), 3弦(A弦)でも同じことを行なってください。
- 何度も繰り返し、声を出して音名を言うようにすればしっかり覚えられます。

exercise 10b

natural notes on the "G" string ●1弦(G弦)上のナチュラル・ノート

Exercise 10b consists of four measures of music on the G string. The tempo is marked as ♩ = 46. Each measure is shown with a musical staff and a corresponding fretboard diagram. The notes and fret numbers are as follows:

| Measure | Fret | Note |
|---------|------|------|
| 1 | 0 | G2 |
| 1 | 2 | A2 |
| 1 | 4 | B2 |
| 1 | 5 | C3 |
| 1 | 7 | D3 |
| 1 | 9 | E3 |
| 2 | 10 | F3 |
| 2 | 12 | G3 |
| 2 | 14 | A3 |
| 2 | 16 | B3 |
| 2 | 17 | C4 |
| 2 | 19 | D4 |
| 3 | 17 | C4 |
| 3 | 16 | B3 |
| 3 | 14 | A3 |
| 3 | 12 | G3 |
| 3 | 10 | F3 |
| 3 | 9 | E3 |
| 4 | 7 | D3 |
| 4 | 5 | C3 |
| 4 | 4 | B2 |
| 4 | 2 | A2 |
| 4 | 0 | G2 |

ます。

ポイント

- 12フレットから先は、0フレットからのくり返しになることを知ってください。
- 演奏に限界を作らないためにも、ハイ・ポジションまでしっかり覚えることが大切です。

exercise 11

notes have many colors ●同音異弦の把握／単音

Exercise 11 consists of three systems of musical notation. Each system includes a bass clef staff with a tempo marking of quarter note = 46, a series of notes with fingerings, and a fretboard diagram below. The fretboard diagrams show the positions of the notes on the strings (T, A, B) and frets.

System 1: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 9, 14, 19, 5, 10, 15, 20.

System 2: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 0, 5, 10, 15, 0, 5, 10.

System 3: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 0, 5, 0.

主な目的

- 同じ音程の音でも、弾く弦が違くとサウンドも変わることを理解するための練習です。

練習方法

- 指板上の音の位置を視覚化して確認しましょう。

ポイント

- 弦楽器では、ひとつの音を弾くにもポジションにさまざまな選択肢があります。

exercise 12

bassline in different positions ●同音異弦の把握／ライン

Exercise 12 consists of three systems of musical notation. Each system includes a bass clef staff with a tempo marking of quarter note = 46, a series of notes with fingerings, and a fretboard diagram below. The fretboard diagrams show the positions of the notes on the strings (T, A, B) and frets.

System 1: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 0, 2, 3, 3, 0, 5, 2, 3, 3, 5.

System 2: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 5, 7, 8, 8, 5, 10, 7, 8, 8, 10.

System 3: Notes are G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3. Fretboard diagram shows frets 10, 12, 13, 13, 10, 15, 12, 13, 13, 15, 15, 17, 18, 13, 15.

主な目的

- 単純なラインをさまざまなポジションで弾く練習です。ポジションによってサウンドが変わることを確かめてください。

練習方法

- 自分の知っているラインや、新しく覚えたラインを色々なポジションで弾く練習もしましょう。

ポイント

- 私が演奏する際、最も気をつかうのはサウンドです。容易に弾けるラインでも、サウンドが気に入らなければ他のポジションを探すことにしています。開放弦を含むラインの時は特に気をつかいます。開放弦はサウンドのコントロールが困難なので、押弦に置き換えてサウンドを安定させることもしばしばです。
- あるラインがうまく弾けない時は、他のポジションを考えてみましょう。それだけでうまく弾けるようになることがあります。

PART3

Funk/R&B Techniques

ファンク/R&Bテクニック

PART3では、フィンガースタイルのR&Bの基礎テクニックと、同じく基礎的なスラップ・テクニックを紹介します。

ベースを演奏する上では欠かせないこれらのテクニックは、ジャコ・パストリアスやロッコ・プレスティア、ジェームス・ジェマーソン、マーカス・ミラーなどのプレイでよく見られます。彼らのサウンドや演奏には、他のベーシストとは比較できないほどの個性があります。彼らのテクニックを習得することで、あなたはベーシスト仲間の中で傑出した存在になれるかもしれません。

彼らのテクニックを、あなたがこの先の拠り所とするための“土台”として考えてください。この土台はさらに堅牢なものにしていく必要があります。若い時期に身に付けた習慣やテクニックは、あなたが将来プレイする上での大きな糧となるからです。

exercise 13

long and short notes ●ミュートを使ったロング・ノートとショート・ノート

The exercise is written in bass clef with a common time signature (C) and a tempo marking of quarter note = 46. It consists of three systems, each with a staff and a corresponding fretboard diagram below it. The fretboard diagrams show the 5th fret as the starting point for all notes, indicated by the number '5' on the strings. The first system shows a sequence of eighth notes with muting symbols (dots) above them. The second system shows a sequence of eighth notes with muting symbols (dots) above them. The third system shows a sequence of eighth notes with muting symbols (dots) above them.

主な目的

- 両手を使った基礎的なミュート・テクニックを身につけることによって音の長さをコントロールする練習です。

練習方法

- “-”のついた音符はミュートせずに弾き，“・”はミュートして弾きます。私は左手の人差指で弦を押さえながら、余っている中指などを弦に軽く触れさせることによって音をミュートしています。また、右手をすばやく弦に当てることによってもミュートしています。
- サウンドを均一に保つよう心掛けながら、違う指、指板上のあらゆる場所でミュートを行なう練習も行なってください。

ポイント

- 音の長さに注意を払ってください。
- このシンプルなエクササイズで、典型的なR&Bサウンドを得るために必要なミュートのテクニックが養われます。またこのミュートによって、アップライト・ベースのようなアタック感も得られるので、私は特に“2フィール”のジャズをプレイするときにもしばしば使います。
- 音の“間”からグルーブが生まれることを忘れないでください。

exercise 14

groove using muting technique ●ミュートを使ったグルーヴ

Exercise 14 is a groove exercise in 4/4 time with a tempo of 46 bpm. It consists of two systems of notation. Each system includes a bass staff with a melodic line and a guitar fretboard diagram. The fretboard diagrams show fingerings for the top (T) and bottom (B) strings. The first system's fretboard diagram has the following fingerings: T (5, 4, 4, 5), A (5, 5, 6, 5), B (0, 0, 0, 0, 3, 0). The second system's fretboard diagram has: T (7, 4, 5, 7, 4, 5), A (5, 5, 4, 5, 7, 7), B (0, 0, 0, 3, 0).

主な目的

- exercise 13で身に付けた基礎的なミュート・テクニックを使ってグルーヴを出す練習です。

練習方法

- テンポはゆっくりでかまいません。
- 適切なサウンドを得るために、少し複雑なフィンガリングをしていますが、ビデオと違うポジションでも試してみてください。
- さらに、自分の知っているR&Bの曲でこのミュート・テクニックを使ってみましょう。

ポイント

- ラインをただ容易に弾こうとはしないで、サウンドを重視してください。
- こういったスタイルのラインを弾く時、私はめったに開放弦を使いません。サウンドや音の長さをコントロールしにくいからです。

exercise 15

advanced groove using muting technique

●ミュートを使った上級グルーヴ

Exercise 15 is an advanced groove exercise in 4/4 time with a tempo of 50 bpm. It consists of four systems of notation. Each system includes a bass staff with a melodic line and a guitar fretboard diagram. The fretboard diagrams show fingerings for the top (T) and bottom (B) strings. The first system's fretboard diagram has the following fingerings: T (5, 5, 4, 4, 7), A (5, 5, 5, 7, 7, 7, 4, 7, 3, 4), B (5, 5, 5, 5, 3, 3, 4, 4, 5, 5, 5, 7, 7, 7, 4, 7, 3, 4). The second system's fretboard diagram has: T (5, 5, 4, 4, 7), A (5, 5, 5, 5, 4, 7, 5, 7, 7), B (5, 5, 5, 5, 3, 3, 4, 4, 5, 5, 3, 3, 5, 5). The third system's fretboard diagram has: T (5, 5, 4, 4, 7), A (5, 5, 5, 4, 4, 5, 5, 7), B (5, 5, 5, 5, 3, 3, 4, 4, 5, 5, 3, 3, 4, 4). The fourth system's fretboard diagram has: T (5, 4, 4, 7), A (5, 5, 5, 7, 7, 5, 5, 7, 7, 4, 7, 3, 4), B (5, 5, 5, 5, 5, 5, 3, 3, 4, 4, 5, 5, 5, 7, 7, 7, 4, 7, 3, 4).

次ページへ続く

前ページより続く

5 5 7 5 5 5 4 4 7 5 5 3 3 4 4 | 5 5 5 5 4 4 5 4 7 4 5 3 4

5 5 7 5 5 5 4 4 7 5 5 3 3 4 4 | 5 5 4 4 5 5 7 5 3 3 4 4

5 5 7 5 5 5 4 4 7 5 5 3 3 4 4 | 5 2 2 2 3 3 4 4 5 5 2 2 3 3 4 4

主な目的

- 弦跳びに加えて難しい16分音符のリズムが入ったグルーブ練習で、きちんと弾くにはかなり高度なミュート・テクニックが必要とされます。

練習方法

- まずベースラインを2小節ごとに区切り、それぞれ慣れるまで繰り返し弾きます。次に4小節ごと、その次に8小節ごとで練習し、最後に全体を通して弾いてみてください。
- 50~60くらいのゆっくりしたテンポから始めましょう。

ポイント

- 右手に注意を払い、人差指・中指のどちらで弾いても同じ音量、同じサウンドが出ているか確認しながら弾いてください。

exercise 16

groove over two chords ●ミュートを使った2コードによるグルーブ

♩ = 50

Dmin7 G7

5 5 3 3 5 3 4 5 3 2 3 4 | 5 5 5 3 5 3 5 2 3 4

Dmin7 G7

5 3 3 3 5 3 4 5 3 2 3 4 | 5 5 5 2 3 3 5 2 2 2 2 3

主な目的

- 同じくミュートを使ったグルーブ練習です。コードがふたつになることによって、これまで以上に左手の動きが必要になります。弦をしっかりとミュートするために、これまでとは違ったフィンガリングが要求されるでしょう。

練習方法

- メトロノームかドラム・マシンで簡単なビートを出しながら練習してください。
- 最初はゆっくりとしたテンポで、テクニックに注意を払いながら練習し、それからテンポを速めるようにしましょう。

ポイント

- 数分間休まないで弾き続けてみましょう。そのうちに間違えないで長い間弾くことができるようになります。
- このパターンをインプロヴィゼーションの素材として利用してもいいでしょう。

exercise 17

muting technique and string skipping ●ミュート&弦跳び

♩ = 53

T 8 8 6 6
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 6 6 4 4 6 3 3 4 4 6 6 4 6

T 8 8 6 6
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 6 6 4 4 6 3 3 4 4 6 3 6 4

T 4 4 6 6
A 4 4 4 4 4 4 2 2 2 2 4 4 2 2 3 3 4 4 6
B 4 4 4 4 4 4 2 2 2 2 4 4 2 2 3 3 4 4 4 4 6

T 8 8 6 6
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 6 6 4 4 6 3 3 3 3 4 4 5 6

T 8 8 8 8
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 5 5 8 8 8 8 8 8 6 4

T 6 6
A 4 4 4 4 4 4 3 3 4 6
B 4 4 4 4 4 4 3 3 4 6 6 3 3 6 6 6 6 6 6 4 4 4 6

T 8 8 6 6
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 6 6 4 4 6 3 3 4 4 6 6 4 6

T 8 8 6 6
A 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8
B 6 6 6 6 6 6 5 5 6 8 8 6 6 4 4 6 6 6 6 6 6 8 6 6

主な目的

- ミュートに加え弦跳び(右手が難しい)をマスターするための練習です。

練習方法

- まずは最初の2小節をゆっくり弾いてみてください。ここに出てくる弦跳びが、最後の16小節目までくり返されることになります。
- ビデオをよく見て、私と同じフィンガリングで弾いてください。

ポイント

- 演奏のクリアさとサウンドが少しもくずれない範囲で、可能な限りテンポを上げて弾いてみましょう。このことが16分音符の細かいラインを弾く時の持久力をつけるのにも役立ちます。
- 私をもっとも好きな練習パターンのひとつです。

exercise 18

basic octave slap technique

●基礎的なオクターヴ・スラップ・テクニク

$\text{♩} = 50$

T 9 7 6 5 4 6 7 8
A 7 5 4 3 2 4 5 6
B

T 9 7 6 5 4 6 7 8
A 7 5 4 3 2 4 5 6
B

T 9 7 6 5 4 5 7 8
A 7 5 4 3 2 3 5 6
B

T 9 7 6 5 4 6 7 8
A 7 5 4 3 2 4 5 6
B

T 9
A 7
B

主な目的

- 基本的なオクターヴの弾き方を身につけます。すべてのスラップ奏法の土台となるテクニックです。

練習方法

- ビデオで行なっている通り、3弦(A弦)と1弦(G弦)の組み合わせで4小節弾き、次に4度下げて4弦(E弦)と2弦(D弦)の組み合わせで弾きます。2弦(D弦)を弾くのが難しいことに気づくでしょう。
- 各弦の太さの違いが感じられると思いますが、太さが異なってもサウンドは均一にすることが大切です。
- 音の長さやサウンドにも注意を払ってください。弦が共鳴してもいけません。

ポイント

- オクターヴを押さえる時の私の左手に注目してください。私は人差指と薬指ではなく、人差指と小指を使っています。フレットひとつにつき指1本を割り当てるのが普通のやり方ですが、それでは複雑なスラップを行なう際にミュートが困難になります。その点、薬指の代わりに小指で弦を押さえるようにすると、中指でのミュートがやりやすくなります。ロー・ポジションでも、指をあまり大きく開かなくて済みます。
- スラップ・スタイルのベースラインには、ほぼ例外なくオクターヴ弾きが登場します。この技術を修得することが、スラップをやる上では非常に重要なのです。

exercise19

basic thumb technique ● 基礎的な親指スラップ・テクニック

Exercise 19 musical notation showing two systems of bass clef notation with tablature below. The tempo is marked as quarter note = 50. The first system has two measures, and the second system has two measures. The tablature uses numbers 3, 5, 7 and 'x' for muted notes.

主な目的

- ほとんどのスラップ・ベースラインで使われる基本的な親指のテクニックを学びます。

練習方法

- ミュートとサウンドに神経を集中させて弾いてください。
- すべての弦を均等に鳴らすのはとても難しく、特に細い2弦(D弦)と1弦(G弦)を他と同じ音量で鳴らすには力がいらいます。
- ×印で示したゴースト・ノートは、左手を軽く弦に触れてミュートすることによって得られるものです。弦を指板まで押しはいけません。親指によるスラップの強さは実音と同じで、音量もほぼ同じにしましょう。
- 慣れてきたらテンポを速めてみましょう。

ポイント

- そうは見えないかもしれませんが、4弦(E弦)はさほど強くは叩いていません。むしろ2弦(D弦)や1弦(G弦)に力を入れています。力の入れ加減は使用楽器によっても異なるので、自分で研究してみてください。
- なお、ここで言っているのは、弦を“激しく叩け”ということではありません。そこは誤解しないでください。

exercise20

slap bass groove ● オクターヴと親指によるスラップ・グルーブ

Exercise 20 musical notation showing two systems of bass clef notation with tablature below. The tempo is marked as quarter note = 80. The first system has two measures, and the second system has two measures. The tablature uses numbers 5, 7, 0, 2, 3 and 'P' for slap notes.

主な目的

- オクターヴ弾きと親指のテクニックを組み合わせた複雑なグルーブを弾く練習です。

練習方法

- メトロノームやドラム・マシンと一緒に、何度も何度も繰り返し練習してください。実際のドラマーと一緒に練習すれば、グルーブ感をもっと感じることができます。

ポイント

- スラップ・ベースラインの多くが、このようにオクターヴ弾きと親指のテクニックの組み合わせでできています。

exercise21

advanced slap groove with hammer-ons

●ハンマリング・オンによる上級スラップ・グルーブ

♩=84 Gmin7 P P P

T A B 3 1 1 3 3 1 3 3 3 1 1 3 3 5 2 3 3

Dmin7 P

T A B 3 5 3 3 5 5 3 5 5 5 3 3 5 5

Gmin7 P P P

T A B 1 3 3 1 3 3 1 3 3 3 1 1 3 3 5 2 3 3

Dmin7 P

T A B 3 5 3 3 5 5 3 5 5 5 3 5 5 5 5 5 4

主な目的

- ハンマリング・オンが入った、より高度なスラップの練習です。

練習方法

- 最初は小節ごとに分けて練習します。
- ビデオをよく見て、私が使っているテクニックをコピーしてください。
- 音符の上にPの付いていないところはすべて親指で弾くようにします。この規則を守ってください。

ポイント

- ビデオの通りに弾けるようになったら、ラインを少し変えて、自分なりのバリエーションを作るのもいいでしょう。またいろいろなリズム・パターンでハンマリング・オンを使ってみましょう。もっと複雑なスラップ・ベースラインが弾けるようになります。

PART4

Rhythm Studies and Various Styles

リズム・トレーニング～様々なスタイル

PART4の前半ではリズム譜の読み方を学びます。

ベーシストは譜面をつい軽視しがちです。たいていの方は、譜面を読むことにあまり時間を割いてはいません。それよりもレコードを聴いたり、好きなプレイヤーの演奏をコピーすることでベースを学んでいます。もちろんそれはそれで自然なことです。

しかし譜面が読めるようになると、皆さんはより熟練したプレイヤーになれますし、現実的に言っても、できる仕事が増えます。ミュージカルの仕事やCM音楽のレコーディングなど、譜面が読めないといけない仕事は多いのです。

私自身は、読譜力はミュージシャンにとって必要な能力だと思っていますし、譜面を読むこと自体が楽しみであると考えています。世の中には、譜面の形で残された素晴らしい音楽がたくさんあり、それらは皆さんに発見されるのを待っています。

また譜面を見てすぐに弾けるようになれば、限られた練習時間をより有効に使えるようになるでしょう。

PART4の後半では、色々なスタイルのベースラインを紹介します。

私は皆さんに、オールラウンドなプレイヤーになってもらいたいと思っています。普通は誰でも自分が一番好きなスタイルに入れ込むものですが、だからといってその他の音楽からの影響を一切受けないということもないでしょう。スタイルが何であれ、良い音楽は良いし、優れたプレイヤーの演奏には学ぶべきことが必ず含まれているものです。

あらゆるスタイルの音楽を聴くようにしましょう。両親や友人に好きな音楽を尋ね、それを自分でも聴いてみましょう。そして好き嫌いを決める前にプレイしてみるのです。私自身は、良いプレイヤーが演奏しているものであれば、どんなスタイルの音楽でも楽しむことができます。

各種のスタイルにおける典型的なパターンを、ここで学んでください。あなたがこの先、何かひとつのスタイルを選んだとしても、ここで身に付けたボキャブラリーは必ずあなたのプレイに出てくるはずです。

exercise22a

whole and half note rhythms ● 全音符と2分音符

The exercise consists of four staves of music in bass clef, common time (C), with a tempo of 60. The notation includes various rhythmic patterns of whole and half notes, rests, and slurs.

主な目的

- 様々な音符・休符の中で全音符と2分音符を読み取り、カウントして弾く練習です。

練習方法

- まずは手を叩いて、様々なテンポでこれらのリズムをマスターしてください。そしてメトロノームに合わせてできるようになったら、今度はベースで弾いてみましょう。弾く音はすべて同じ音で構いません。慣れてきたらテンポをだんだん速めて、倍くらいのテンポでも弾けるようになりましょう。

ポイント

- 全音符と2分音符の練習は簡単であると思われ、忘れられがちです。しかし、こうしたリズムは2/2拍子の音楽をプレイする時などは欠かせません。

exercise22b

introduction of dotted notes ● 簡単な付点音符

Exercise 22b consists of four staves of music in bass clef, 4/4 time, with a tempo marking of quarter note = 60. The first staff shows a sequence of quarter notes and dotted quarter notes. The second staff shows eighth notes and dotted eighth notes. The third staff shows a sequence of eighth notes with slurs. The fourth staff shows a sequence of eighth notes with a slur and a 5-measure rest.

主な目的

- 簡単な付点音符(付点2分音符)を組み入れることによって、通常の音符(2・4分音符)との違いを理解します。

練習方法

- 足で4分音符を刻みながら、手を叩いてこれらのリズムをとってみましょう。間違えやすい部分は何度も練習しましょう。

ポイント

- 付点音符は、付点の付いた音符の半分の長さを足したものです。したがって付点2分音符は2分音符に4分音符を足したもの、あるいは4分音符3つと等しくなります。
- ここには5小節の長休符も含まれています。これはミュージカルやオーケストラのパート譜によく見られます。

exercise22c

combinations of rests ● 4分休符のコンビネーション

Exercise 22c consists of four staves of music in bass clef, 4/4 time, with a tempo marking of quarter note = 60. The first staff shows a sequence of quarter notes and a 4-measure rest. The second staff shows a sequence of quarter notes and a 4-measure rest. The third staff shows a sequence of quarter notes and a 4-measure rest. The fourth staff shows a sequence of quarter notes and a 4-measure rest.

主な目的

- 様々な位置に4分休符を入れたリズム・トレーニングです。

練習方法

- ビデオではメトロノームを2拍目と4拍目だけで鳴らしていますが、それに合わせて弾くのが難しい場合は4拍すべての拍で鳴らしてもかまいません。

ポイント

- タイをないものとして弾く練習もしましょう。それによって、タイでつながった時の音の長さも実感できるはずです。

exercise23a

quarter and eighth note rhythms

●4分音符と8分音符のコンビネーション

♩ = 54

主な目的

- 4分音符と8分音符を組み合わせたリズム・トレーニングです。読譜の練習も兼ねています。

練習方法

- 4小節ごとに区切って、順序を自分なりに入れ替えて弾く練習もしてみてください。演奏にヴァリエーションが出てくるはずです。

ポイント

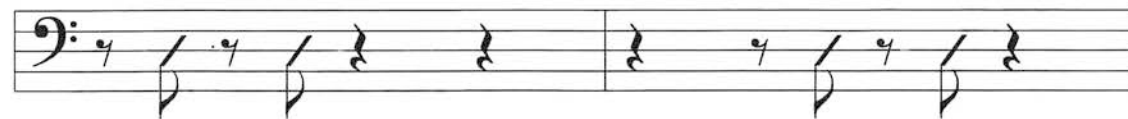
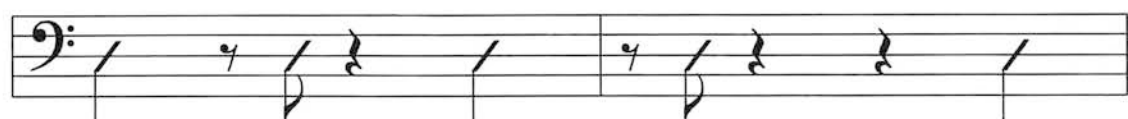
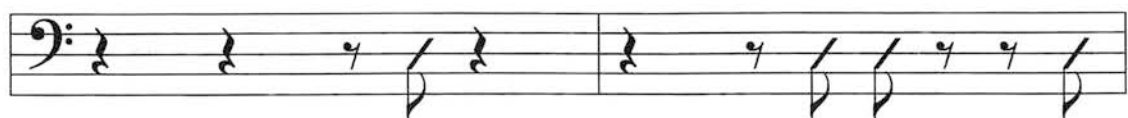
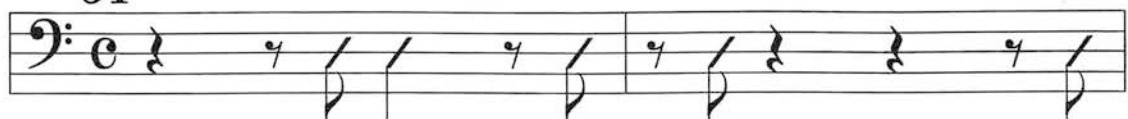
- 私は8分休符を強く意識しながら弾いています。音が休符にかからないように、休符ではしっかり音を止めるようにしてください。

exercise23b

focus on quarter and eighth note rests

●4分休符と8分休符のコンビネーション

$\text{♩} = 54$



主な目的

- 4分休符と8分休符を組み合わせたリズム・トレーニングです。読譜の練習も兼ねています。

練習方法

- 1小節ずつ飛ばしながら弾いてみたり、譜面を逆にして弾く練習などもしてみてください。テンポを早めたり、とにかくいろいろと試してみることが大切です。

exercise24a

quarter and eighth note relationship

●4分音符と8分音符の関係

主な目的

●24b-fを練習するための準備練習です。

exercise24b

eighth note rest movement ●8分休符の移動

主な目的

●8分休符の入る位置が小節ごとに変わるリズム・トレーニングです。

exercise24c

adding eighth note rests ●8分休符の追加

主な目的

- 小節が進むに従って8分休符がひとつずつ増えていくリズム・トレーニングです。
- 各小節ごとにリズムが変わることによって、弾き方も少しずつ変わってくることを感じましょう。

exercise24d

eighth note movement ●8分音符の移動

主な目的

- 8分音符を読み取る際に出てくる様々な休符のコンビネーションに慣れましょう。

exercise24e

adding muted notes ●実音とミュートのコンビネーション①

♩ = 54

主な目的

- 基本的にはミュート音を出しながら、あらゆるタイミングで実音を入れるリズム・トレーニングです。

練習方法

- 違う弦や開放弦でも試してください。

ポイント

- このミュートと実音を組み合わせる方法は、R&Bをプレイする時に特に役立ちます。
- これまでに出てきたリズム・トレーニングも、この方法で弾くと難しくなります。試してみてください。

exercise24f

mixing eighth notes with muted notes

●実音とミュートのコンビネーション②

♩ = 54

主な目的

- より複雑なミュートと実音の組み合わせによるリズム・トレーニングです。

練習方法

- 最初は4小節ごとに区切ってゆっくりと始め、難しいところは重点的に練習します。
- 次に16小節を通して弾き、それにも慣れたら全体を何回もくりかえして弾く練習をしてください。
- 各小節をランダムに組み合わせたり、自分自身でもっと難しい練習パターンを作ったり、さらにそれらを逆に弾く練習などをしてよいでしょう。

exercise25a

feeling subdivisions ● 拍子の分割(4・8・3連・16分音符)

The exercise consists of six staves of music in bass clef, common time, with a tempo marking of quarter note = 50. The first staff shows a 4-beat pattern with slanted lines. The second and third staves show 8-beat patterns with slanted lines and triplet markings (3) below. The fourth and fifth staves show 4-beat patterns with slanted lines. The sixth staff shows a 4-beat pattern with slanted lines and triplet markings (3) below.

主な目的

- 通常の4拍子の各拍を様々な音符で分割したトレーニングです。4分、8分、3連、16分のそれぞれの長さに慣れてください。

練習方法

- 弾く音程やテンポを変えた練習もしましょう。

ポイント

- 音符が変わっても各拍を一定に保ち、つなぎ目はスムーズでなくてはなりません。どのようなテンポでプレイしていても、こうした異なる分割の感覚を持つことは大切です。

exercise25b

16th note rhythms ● 16分音符のコンビネーション

The exercise consists of six staves of music in bass clef, common time, with a tempo marking of quarter note = 50. The first staff shows a 4-beat pattern with slanted lines. The second and third staves show 8-beat patterns with slanted lines. The fourth and fifth staves show 4-beat patterns with slanted lines and dotted rhythms. The sixth staff shows a 4-beat pattern with slanted lines.

主な目的

- 16分音符を様々な組み合わせたリズム・トレーニングです。

練習方法

- ベースで練習する前に、手でリズムを叩いてみましょう。

exercise25c

combining rhythms ● 25a・25bのコンビネーション

♩=50

主な目的

- exercise25aと25bで学んだリズムをミックスしたトレーニングです。

exercise25d

non-repeated rhythms ● 規則性のないリズム

♩=50

主な目的

- 1拍ごとにリズムがどんどん変わっていくトレーニングです。

ポイント

- つかみどころがないリズム・パターンなので、読譜にはかなりの集中力が必要とされます。

exercise 26a

jazz "2 feel" ● ジャズ "2フィール"

♩ = 66 B \flat 7 Eb7 B \flat 7

T
A
B

E \flat 7

T
A
B

B \flat 7 Dmin7 G7 Cmin7

T
A
B

F7 B \flat 7 Gmin7 Cmin7 F7

T
A
B

B \flat 7 Eb7 B \flat 7

T
A
B

E \flat 7

T
A
B

B \flat 7 Dmin7 G7 Cmin7

T
A
B

F7 B \flat 7 Gmin7 Cmin7 F7 B \flat 7

T
A
B

主な目的

- ジャズにおけるベースラインの組み立て方の基本を理解するための練習パターンです。

練習方法

- メトロノームは2拍目と4拍目で鳴らします。これをドラムのハイハットに見立ててください。この感覚はジャズのスタンダード曲を演奏する上でも役立ちます。

ポイント

- “2フィール”は4分の4拍子の時の各小節の1拍目と3拍目で2分音符を弾く手法です。1拍目でルート、3拍目で5度を弾くことが多いのですが、3拍目をルートや3度にすることもあります。
- “2フィール”は曲の出だしやメロディ部で弾くことが多く、メロディ部のあとは4分音符によるウォーキング・ベースになるのが一般的です。

exercise26b

jazz “skip 2 feel” ● ジャズ “スキップ2フィール”

♩=66 Bb7 Eb7 Bb7

T
A
B

Eb7

T
A
B

Bb7 Dmin7 G7 Cmin7

T
A
B

F7 Dmin7 G7 Cmin7 F7

T
A
B

Bb7 Eb7 Bb7

T
A
B

Eb7

T
A
B

Bb7 Dmin7 G7 Cmin7

T
A
B

F7 Dmin7 G7 Cmin7 F7 Bb7

T
A
B

主な目的

- より進んだジャズ・ベースラインの組み立て方を理解するための練習です。

練習方法

- この例以外にも、あらゆるスタンダード曲を題材にして、しかもいろいろなテンポで同様の練習を行ないましょう。

ポイント

- “スキップ2フィール”は“ブロークン2フィール”とも言われます。基本的には2フィールなのですが、若干のリズム変化により、次に出てくるコードに一層緊密につながっていきます。各小節の最後の音が次の小節の最初の音に対して半音などでうまくつながっている点に注目してください。
- この“スキップ2フィール”を曲のメロディ部で行なう時は十分気をつけてください。ベースラインが細かすぎてメロディを支えられなくなることがあるからです。

exercise26c

walking bassline ● ウォーキング・ベースライン

♩ = 66 Bb7 Eb7 Bb7

TAB: 3 3 0 | 1 1 2 0 | 3 4 5 2

A: 1 3 0 | 1 1 2 0 | 3 4 5 2

B: 1 3 0 | 1 1 2 0 | 3 4 5 2

3 Eb7

TAB: 3 0 3 0 | 1 1 3 1 | 1 0 1 2

A: 3 0 3 0 | 1 1 3 1 | 1 0 1 2

B: 3 0 3 0 | 1 1 3 1 | 1 0 1 2

Bb7 Dmin7 G7 Cmin7

TAB: 3 0 1 2 | 3 4 5 2 | 3 1 3 3

A: 3 0 1 2 | 3 4 5 2 | 3 1 3 3

B: 3 0 1 2 | 3 4 5 2 | 3 1 3 3

F7 Bb7 Gmin7 Cmin7 F7

TAB: 1 3 1 0 | 2 4 3 0 | 1 2 3 0

A: 1 3 1 0 | 2 4 3 0 | 1 2 3 0

B: 1 3 1 0 | 2 4 3 0 | 1 2 3 0

Bb7 Eb7 Bb7

TAB: 3 1 3 | 1 4 3 2 | 1 0 1 2

A: 3 1 3 | 1 4 3 2 | 1 0 1 2

B: 3 1 3 | 1 4 3 2 | 1 0 1 2

3 Eb7

TAB: 3 5 2 0 | 1 2 3 2 | 1 3 0 0

A: 3 5 2 0 | 1 2 3 2 | 1 3 0 0

B: 3 5 2 0 | 1 2 3 2 | 1 3 0 0

Bb7 Dmin7 G7 Cmin7

TAB: 1 2 3 4 | 5 3 2 4 | 3 3 3 1

A: 1 2 3 4 | 5 3 2 4 | 3 3 3 1

B: 1 2 3 4 | 5 3 2 4 | 3 3 3 1

F7 Bb7 Gmin7 Cmin7 F7 Bb7

TAB: 3 0 3 | 1 0 3 1 | 3 1 0 1 | 1

A: 3 0 3 | 1 0 3 1 | 3 1 0 1 | 1

B: 3 0 3 | 1 0 3 1 | 3 1 0 1 | 1

主な目的

- 典型的なウォーキング・ベースラインの組み立て方を学びます。

練習方法

- ここでもメトロノームは2拍目と4拍目で鳴らします。
- ブルース進行やスタンダード曲のベースラインを自分で書き出してみましょう。

ポイント

- 典型的なウォーキング・ベースでは、1・3拍目が強拍、2・4拍目が弱拍

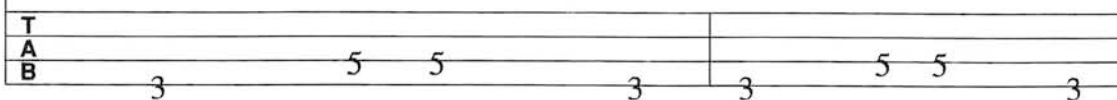
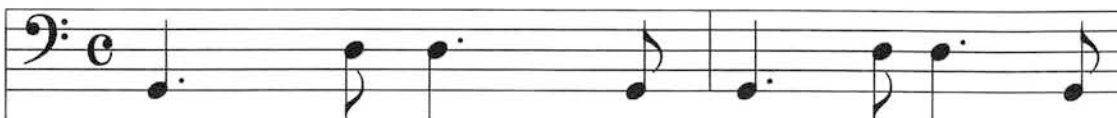
となります。通常、1拍目はルート、2拍目は経過音、3拍目はコード・トーン、4拍目は次に来るコードに対するアプローチ・ノートを弾きますが、これはあくまでも一般論であり、プレイの状況によって変わることが少なくありません。

- ここであげた例には、クロマチック・アプローチやダブル・クロマチック・アプローチなど、ウォーキング・ベースのさまざまなテクニックが盛り込まれています。
- 4拍目におけるアプローチ・ノートはベースラインをスムーズにつなげる役割をもっており、次に来るコードのルートの上下にあるスケール音などは有効です。

exercise28a

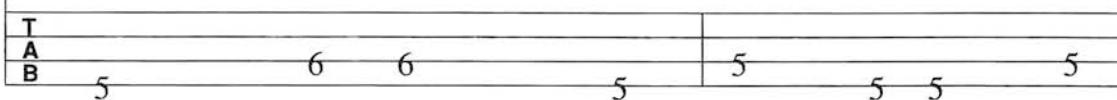
bossa nova ● ボサ・ノヴァ

♩=70 Gmin7

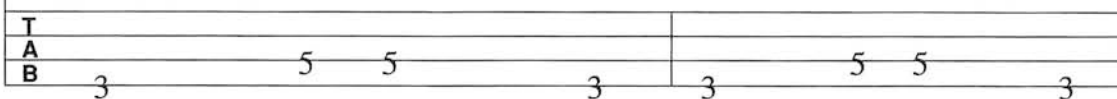


Am7(b5)

D7(b9)

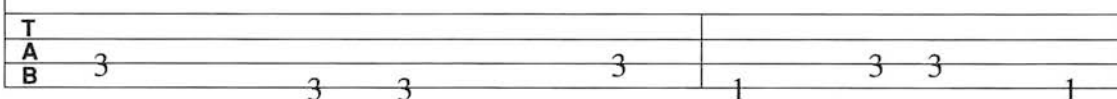


Gmin7

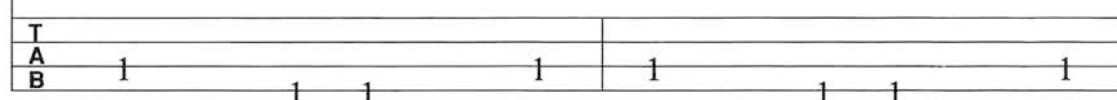


Cmin7

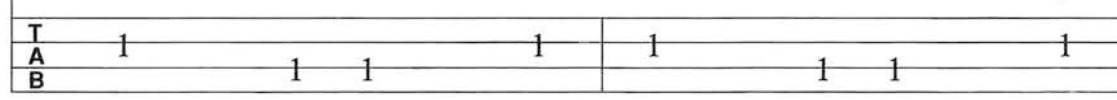
F7



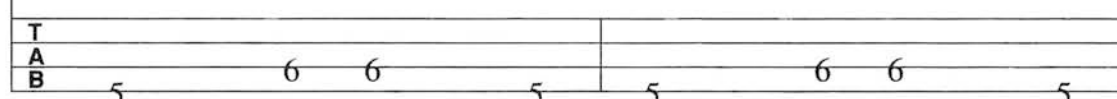
BbMaj7



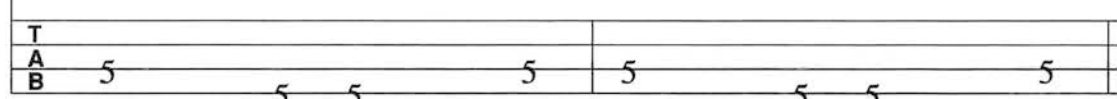
EbMaj7



Am7(b5)



D7(b9)



主な目的

- 基本的なボサ・ノヴァの感覚を学びます。

練習方法

- 4分音符で鳴らしたメトロノーム, またはクラヴェ(ラテン音楽特有のリズム)に合わせて弾きましょう。
- ビデオで示した以外にも, 様々なテンポとコード進行で練習してください。そのために典型的なラテン音楽を聴くことをお勧めします。

ポイント

- 典型的なボサ・ノヴァの感覚はコードのルートと5度で得ることができます。

exercise28b

Latin tumbao ● ラテン(トゥンバオ)

♩=94 Gmin7

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 3 | 5 | 5 | 8 | 7 | |

Am7(b5) D7(b9)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 6 | 5 | 5 | 5 | 3 | |

Gmin7

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 5 | 5 | 1 | 3 | | |

Cmin7 F7

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 3 | 1 | 3 | 1 | | |

BbMaj7

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | |

EbMaj7

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 5 |

Am7(b5)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 6 | 7 | 7 | 3 | 5 | |

D7(b9)

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|--|
| T | | | | | | |
| A | | | | | | |
| B | 5 | 5 | 2 | 5 | | |

主な目的

- トゥンバオと呼ばれる伝統的なラテンの感覚を学び、クラーヴェを練習します。

練習方法

- 足でクラーヴェのリズムをとりながらベースラインを弾きましょう。これは手足やリズムの独立性を鍛えるための練習にもなります。
- クラーヴェは2小節からなるリズムで、2・3拍目と1拍目・2拍目ウラ・4拍目(2:3クラーヴェ), またはその逆(3:2クラーヴェ)という組み合わせによるリズム・パターンです。

ポイント

- アフロ・キューバン音楽のグルーヴは、このトゥンバオによって成り立っています。トゥンバオはベースやコンガでリズムを繰り返してグルーヴを生み出します。ここではベースはドラムのような働きをしています。
- ロックを聴くときはバックビートを感じ、ジャズを聴くときも2拍・4拍を感じるように、ラテン音楽ではクラーヴェを感じることを鍵となります。
- このベースラインでは、次に来るコードのルート音が、ひとつ前の小節の4拍目から演奏されます。ラテン音楽にあまり親しみがない人にとっては、この感覚が最もマスターしづらいかもしれません。
- このエクササイズ以外にも、様々なジャズやラテンのスタンダード曲を、こうしたトゥンバオ・スタイルで弾いてみましょう。

exercise28c

Latin with improvisation ● 上級ラテン・フィール

♩=80 Gmin7

T
A
B

Am7(b5) D7(b9)

T
A
B

Gmin7

T
A
B

Cmin7 F7

T
A
B

BbMaj7

T
A
B

EbMaj7

T
A
B

Am7(b5)

T
A
B

D7(b9)

T
A
B

主な目的

- ラテンのベースラインの発展形です。

練習方法

- ドラム・マシンなどでクラヴェのリズムを出して練習します。2:3クラヴェ, 3:2クラヴェの両方で練習しましょう。足でもクラヴェのリズムをとりましょう。
- ドラマーとも一緒にプレイしてみましょう。
- ラテンのスタンダード曲を学びましょう。

ポイント

- このベースラインでは、伝統的なラテンの感覚にインプロヴィゼーションも加えてプレイしています。これはラテン・ジャズやフュージョンをプレイするときにも非常に役立ちます。
- ボサ・ノヴァをプレイするときには、もう少しゆったりとしたベースラインを使います。その方がスタンダードなボサ・ノヴァ感覚が生み出されるからです。

exercise29a

basic hip-hop feel ● 基礎的なヒップホップ・フィール

主な目的

- これまでに学んだミュート・テクニックと様々なスウィング感を組み合わせ、基本的なヒップホップの感覚を学びます。

練習方法

- 有名なアーティストのスタイルを聴き、ベースラインを学び、ジャズのスタンダード曲のメロディも覚えましょう。優れたジャズ・プレイヤー達のメロディに対する解釈を学び、彼らのフレーズングをコピーすることによって、スウィング感が養われます。

ポイント

- ヒップホップのベースラインはスウィングに根ざしているため、ジャズをプレイしているようにも感じられます。
- 譜面に書かれているベースラインと実際に演奏されているベースラインを比較してみましょう。ヒップホップのグルーブでは、譜面から学んでコピーするよりも、サウンドとしてのフィールをつかみ、ベースラインに自分なりの解釈を加えることが必要です。
- スウィング感はテンポに左右されます。スロー・テンポでは、よりスウィング感を感じやすく、速いテンポでは、ベースラインはストレートな感じになっていきます。様々なテンポで練習してみましょう。

exercise29b

advanced hip-hop feel ● 上級ヒップホップ・フィール

主な目的

- もう少々のテクニックを要するヒップホップをマスターします。リズムが複雑になり、弦跳びも出てきます。

練習方法

- 各小節ごとに練習していきましょう。左手でのミュートやフィンガリングに気をつけながら、ゆっくりしたテンポで始めてください。

ポイント

- 音の長さを十分保ってください。多くの人は音を短くしがちです。その方が左手が楽だからです。しかしそれではヒップホップの感じは出ません。
- 2, 3回繰り返すだけでなく、4~5分間弾き続けることによってヒップホップのグルーブ感を身に付けましょう。そうすると長い間演奏し続けるのが容易になります。

デモ演奏について

demonstration 1

Finger Style/Slap Style

最初の部分では、ミュートを多用したR&Bスタイルの演奏を行なっています。私はジャコ・パストリアス、ロッコ・プレスティア、ジェフ・バーリンらを手本にしながら、自分のミュート・テクニックを磨いてきました。

後半では高度なスラップ・テクニックに注目してください。最初のうちは親指のみで弾いています。親指だけでスピードと正確さ、そしてクリーンな音を出すことの大切さを知っていただくためです。

終盤では、ミュートを多用しながらさまざまなスラップ・テクニックを披露しています。これらはマーカス・ミラーやルイス・ジョンソン、ラリー・グラハムらの優れたスラップ・ベース・プレイヤーから学んだものです。

demonstration 2

Blues Shuffle/Walk Swing Style

ブルース・シャッフルを基調とした演奏です。

皆さんもさまざまなシャッフルをマスターしてください。ギグで求められることが多いからです。ブルース・バンドで演奏したり、ギグでジャム・セッションをしていれば、ひと晩に最低1回はブルース・シャッフルをやることになります。私自身はベースラインがくり返しに陥らないように、常にいろいろなシャッフルを考えるようにしています。

このデモはハーフタイムである2フィールで始まります。その後いくつかのシャッフルを経由して、最後はテンポを倍にとった4拍子のスウィングで終わります。スウィングの最初で、ルーズな2フィールからスウィングへと、滑らかに移行している点に注目してください。そしてそのあとは、4/4拍子のウォーキング・ベースになります。

demonstration 3

Funk Style

このデモでは、グルーブを一定に保つことの大切さを伝えようと思いました。ベーシストは、ひとつのラインを同じ感覚、同じテンポ、同じサウンドで何度も何度もくり返すことができなくてはなりません。それができて始めて他のメンバーから信頼されるのです。例えばギグが終わったあとに誰かから、“最初から最後までグルーブ感のある演奏だった”と言われたら、それはベーシストにとって最高の褒め言葉です。

後半の中頃にはインプロヴィゼーションが少し含まれ、7/8拍子のセクションも登場します。このビデオでは変拍子には触れていませんが、そこは皆さん自身でマスターしてください。

demonstration 4

Latin Feel “Tumbao” and Variations

このデモではベーシックなラテン・フィールをプレイしています。

始めと終わりの部分はモントゥーノになっています。モントゥーノとは、曲中において次のセクションへと移るキュー(合図)が出される前に演奏される繰り返しのパターン、またはヴァンプとも呼ばれるもので、ソロが延々とプレイされる時にもよく使われます。いかにひとつ前の小節の4拍目で、次に出てくるベースラインを先取りして感じるかにも注意してください。これはベーシストにとってマスターすることが最も難しい感覚のひとつです。

ここでは様々なスタイルを紹介していますので、それらの中から伝統的なヴォキャブラリーを色々と学んでいってください。

demonstration 5

“Just Funky”

composed by Tomo Fujita

おわりに

このビデオが皆さんにとって有益で挑戦しがいのあるものであることを祈ります。ベースに対する自分の知識を多くの人々と分かち合うことは、私の喜びでもあるのです。

練習は続けることが大事です。練習時間は毎日必ずとってください。1日6時間もやれと言っているわけではありません。毎日30分、忘れずに練習すればよいのです。その方が6時間の練習を週1回行なうよりも効果が上がります。継続が鍵です。ゆっくり着実に進歩していきましょう。

オールラウンドなプレイヤーを目指してください。知識が豊富で、あらゆるスタイルに精通しているベーシストは、どんな時でも重宝されます。

基礎はしっかり固めてください。そしてタイム感とフィーリングがベーシストの命です。

このビデオで紹介したマテリアルやスタイルを気に入っていただけたのなら、私のウェブ・サイトもぜひのぞいてみてください。スラップ、フィンガースタイルのR&B、譜面の読み方、ウォーキング・ベースなどについて書いたCD付きの教則本や、私自身のオリジナル・ミュージックなどについて、多くの情報が得られます。

さらに私は、新しいエクササイズを皆さんにお知らせするようなこともやっていますし、音楽に関する皆さんの御質問をEメールで送っていただければ相談に乗ることも可能です。

最後まで見てくれてありがとう。

いつかギグで会いましょう!

1999年7月 アンソニー・ヴィッティ

追記

このビデオに収録されたエクササイズ3, 9, 10, 11, 12, 22, 23, 24, 25は、藤田智久の教則ビデオ『ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ』(リットーミュージック)から取られたものである。彼のビデオはギタリストだけでなく、ベーシストにも非常に有益であることを付け加えたい。

プロフィール

ニューヨーク出身。

1982年から86年までバークリー音楽院で学び、ミュージック・プロダクションとエンジニアリングの学位を得て卒業。

その後5年間は、アトランティックシティ、ニュージャージー、キャットスキルズ、ニューヨークなどでサミー・デイヴィスJr., ボビー・ヴィントン、ネル・カーター、ジョージ・バーンズなどの数多くのアーティストのショーでベースを弾く。

1990年にバークリー音楽院で教鞭を執り始め、現在は助教授に就任。コンテンポラリーなプレイ・スタイルと、スラップ・ベースやR&B、読譜に関する学識で知られている。

演奏活動、レコーディング活動の場はボストンを中心にアメリカ全土に広がり、共演者もスティーヴ・スミス、グレッグ・ビソネット、ジョヴァンニ・ヒダルコ、ジョー・フランコ、トイ・コールドウェル、フェリックス・キャバリエ、ロバート・クラインと幅広い。

テレビやラジオのCM音楽の仕事も数多くこなし、3冊の教則本とCDを出版・発売している。

アンソニー・ヴィッティ・ホームページ

<http://anthonyvitti.com>

Anthony Vitti uses: Blue Steel Strings / Dean Markley

[Dedication]

I would like to thank my wife Sandra and daughter Victoria for all their support while I was working on this project. The importance of my wife often goes overlooked, but without her help, I would not have the time, drive or inspiration to take on a project like this. I have to thank Tomo Fujita for putting so much faith in my ability. I dedicate this project to the memory of my best friend and brother Jerry, the strongest person I have ever known. I think of him often. He would have been proud.

Anthony Vitti

ベーシストのための
演奏能力開発エクササイズ

『ベーシストのための演奏能力開発エクササイズ』解説書

■採譜・解説／アンソニー・ヴィッティ

■翻訳／ミカ・ゴーインズ

■浄書／いちむらまさき

■DTP／波多江潤子

■企画制作／株式会社リットーミュージック

※無断複製・転載を禁ずる

VW-176